

ES/1 NEO

MFシリーズ

V05L21R3

Release News Letter

IBMシステム

目次

【お知らせ】

ES/1 NEO MFシリーズのサポートについて
PC製品 サポート終了のお知らせ

【HOST】

資源使用量比較一覧	
リリースニュースレター機能一覧 プロセジャ別	… 1
リリースニュースレター機能一覧 カテゴリ分類別	… 2
PNAVISRMプロセジャのご紹介	… 3
VOLCHK00プロセジャのご紹介	… 4
MF-ADVISOR	… 5
MF-SCOPE	… 11
MF-AUDIT	… 14
MF-DB2	… 17
MF-支援ライブラリー	… 18
MF-eASSIST	… 20

【PC】

リリースニュースレター機能一覧 プログラム別	… 28
リリースニュースレター機能一覧 カテゴリ分類別	… 29
Performance Navigator	… 30
Web	… 37

 株式会社 アイ・アイ・エム

本リリースニュースレターは、V05L21R3 のリリース内容をまとめたものです。過去のリリース内容につきましては、プロダクトメディア (x:¥Rnl) 内のレターをご参照ください。

改版履歴

日付	版数	内容
2023/2/28	1	V5L21R3 リリース
2023/10/31	2	「521-090.Microsoft@365 Apps 環境への対応」に追記

ES/1 NEO MF シリーズのサポートについて

各バージョンの通常サポート期間はリリースより 30 ヶ月間です。

バージョンはバージョン、レベル、リビジョンからなり、レベルを基準とします。後継リビジョンのリリースに伴い、旧リビジョンのサポートは延長されます。

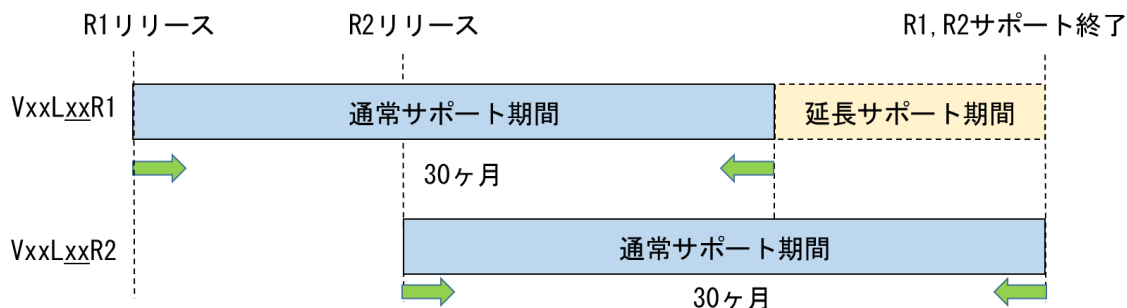


図. 製品ライフサイクルのイメージ

<バージョン（バージョン・レベル・リビジョン）の確認方法>

ES/1 実行ログにて確認できます。

例) V05L21R3 の場合

V 0 5 L 2 1 R 3

バージョン レベル リビジョン

```
LICENSEE ----- TRIAL USER
EXPIRATION DATE ----- 2022/5/31
VERSION/LEVEL/REVISION ---- 05.21.03
```

<今後のサポート予定>

今後のサポート期間について、お知らせします。

バージョン	リリース時期	サポート終了予定時期
V05L21R3	2023年2月	2025年8月31日
V05L21R2	2022年2月	2025年8月31日
V05L21R1	2021年10月	2025年8月31日
V05L20R3	2020年11月	2023年5月31日
V05L20R2	2019年11月	2023年5月31日
V05L20R1	2019年3月	2023年5月31日

<通常サポート中とサポート終了後の違い>

サポート終了後のバージョンも継続してご利用いただけます。

但し、不具合に対応した修正パッチは、最新リリースまたはサポート期間中のバージョンに対してのみの提供となります。サポート終了後のバージョンをご利用中に発生した不具合の対応については、原則として最新バージョンに対応した修正パッチを提供させていただきます。

	サポート期間中	サポート終了後
当該バージョンの継続使用	可	可
製品の使用方法に関するご質問	可	可
不具合発生時の調査	可	可※
不具合修正パッチの提供	可	不可

※ナレッジベースでの調査となります。

<バージョンアップのお願い>

通常サポート期間を終了したバージョンについては、限定的なサポートのみの提供となります。最新バージョンへのバージョンアップのご検討をお願いいたします。

以上

PC製品 サポート終了のお知らせ

現在、MF-eASSIST でサポートしています次のオペレーティング・システム、アプリケーションを、下記の期日でサポート終了とさせていただきます予定です。

<サポート終了オペレーティング・システム>

Microsoft® Windows® 8.1 サポート終了時期：2024年1月末

<サポート終了アプリケーション>

Microsoft® Excel2013 / Word2013 サポート終了時期：2024年4月末

V05L21R3 では、MF-eASSIST の対象環境は次の通りとなります。

<オペレーティング・システム>

Microsoft® Windows® 8.1
Microsoft® Windows® Server 2012
Microsoft® Windows® Server 2012 R2
Microsoft® Windows® 10
Microsoft® Windows® Server 2016
Microsoft® Windows® Server 2019
Microsoft® Windows® Server 2022
Microsoft® Windows® 11

<アプリケーション>

Microsoft® Excel2013 / Word2013
Microsoft® Excel2016 / Word2016
Microsoft® Excel2019 / Word2019
Microsoft® Excel2021 / Word2021
Microsoft® 365 Apps (Office®365)

Microsoft Edge

Google Chrome

.NET Framework 4.5.2 以上

以上

ES/1 NEO MFシリーズ V05L21R3 資源使用量比較一覧

本資料は、ES/1 NEO MFシリーズ V05L21R3 と、以前のリリース (V05L21R2) との資源使用量比較一覧です。
各項目の意味は以下の通りです。

CPU	以前のリリースと比較し、CPU時間が1割以上増加することがある場合、●としています。 この結果は、入力されるデータにより異なります。
STG	以前のリリースと比較し、使用仮想記憶域が増加した量を示します。 この結果は、入力されるデータには関係ありません。
	以前のリリースと比較し、上記本体の増分以上に使用仮想記憶域が増加することがある場合、●としています。 この結果は、入力されるデータにより異なります。

		V05L21R2 vs V05L21R3	
		CPU	STG
			本体 (KB) データ
MF-ADVISOR	CPECNVRT	—	0 —
	CPEPRT00	—	4 —
	CMOSPRTO	●	4 ●
	HIBICHKO	—	4 —
	CPEREG00	—	4 —
	SMFPRT00	—	4 —
	CPEDSN00	—	4 —
	RAIDPRTO	—	4 —
	RAIDCNFO	—	4 —
	VOLLST00	●	4 —
	CPEMGS00	—	4 —
	MF-MAGIC	CPEDBAMS	—
BOXSYS00		—	4 —
BOXWLC00		●	4 —
MF-SCOPE	JOBANLST	—	4 —
	JOBMONTH	—	4 —
	JOBDTL10	—	4 —
	AUDITPRT	—	4 —
	AUDITMON	—	4 —
MF-PREDICT	PNAVIADT	—	4 —
	PRDIOS00	—	4 —
MF-AUDIT	CPEDSN00	—	4 —
	CPEREG00	—	4 —
	AUDITPRT	—	4 —
MFシリーズ 支援ライブラリ	DSNCSV00	—	4 —
	CPEDASDO	—	4 —
	PAGPRT00	—	4 —
	CPEVOLGP	—	4 —
	CPEVSM00	—	4 —
	CPEVTS00	—	4 —
	DSNCSV00	—	4 —
	TSSCSV00	—	4 —
	CPETS700	—	4 —
	JOBDSNCV	—	4 —
VOLCHK00	—	— —	
MF-eASSIST	PNAVICEC	●	4 —
	PNAVJOB0	—	4 —
	PNAVJOB1	—	4 —
	PNAVIVSP	—	4 —
	PNAVIMS	—	4 —
	PNAVIMSL	—	4 —
	PNAVIMSF	—	4 —
	PNAVICS	—	4 —
	PNAVIVTS	—	4 —
	PNAVIVSM	—	4 —
	PNAVIB2	●	4 —
	PNAVIADT	—	4 —
	PNAVTS70	●	4 —
PNCICSST	—	4 —	
PNAVISR	—	— —	
MF-ZVM	ZVMPT00	—	4 —
	ZVMCSV00	—	4 —
MF-WebSphere	CPEWAS00	—	4 —
MF-DB2	CPEDB200	●	4 ●
	DB2TRCOO	—	4 —
MF-CICS	CICSPRTO	—	4 —
	CICSTRCO	—	4 —

※本体の使用仮想記憶域の増加が大きい場合、該当の箇所に色を付けて表示します。

例.	MF-ADVISOR	CPEPRT00	—	124	—
		CMOSPRTO	—	4	—

注意：(1) 本資料は弊社環境 (IBM環境) での結果に基づいています。環境により異なる場合がありますので、参考資料としてください。
(2) 実行時に仮想記憶領域不足が発生する場合、OVER16機能をご使用ください。

【OVER16機能 指定方法】 実行するプロセッサのJCLに次のような指定を追加してください。
REGIONサイズの指定は、お客様の環境に応じて変更してください。

//SHELL EXEC PGM=CPESHELL, REGION=1024M, PARM=PARM	<=追加・変更
//SYSPRINT DD SYSOUT=*	
//SYSUDUMP DD SYSOUT=*	
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 5))	
//CPEPARM DD *	<=追加
OVER16=SYMBOL	<=追加
OSTYPE=#OSTYPE	<=追加

OVER16機能の詳細につきましては「ES/1 NEO MFシリーズ 使用者の手引き 共通編 (IBM / 富士通 / 日立システム)」
'3.3.2 OVER16機能' をご参照ください。

新規プロセッサ

プロダクト	プログラム プロセッサ	分類	項番	項目	非互換	数値 変更	表示 変更	スイッチ 追加	特記事項	参照 ページ	記事 番号
MF-eASSIST	PNAVISRM	拡張	1	PNAVISRMプロセッサ					SMFタイプ99	3	521-060
支援ライブラリー	VOLCHK00	拡張	2	VOLCHK00プロセッサ						4	521-061

既存プロセッサ

プロダクト	プログラム プロセッサ	分類	項番	項目	非互換	数値 変更	表示 変更	スイッチ 追加	特記事項	参照 ページ	記事 番号
MF-ADVISOR	CMOSPRTO	不具合	1	業務メモリー使用量に誤り		●				5	521-062
		拡張	2	zFSのサポート			●	●	zFS	6	521-063
		拡張	3	CPCモデルの追加			●			7	521-064
		拡張	4	イメージキャパシティ値の追加			●			8	521-065
	VOLLST00	拡張	5	「ストレージグループ情報レポート(SW07)」の追加				●		9	521-066
		不具合	6	ボリューム情報がないデータでエラーする						10	521-067
MF-SCOPE	AUDITPRT	拡張	7	RACF事象コードへの対応					zOS V2R4以降	11	521-068
	AUDITMON	拡張	8	RACF事象コードへの対応					zOS V2R4以降	12	521-069
	PNAVIADT	拡張	9	RACF事象コードへの対応					zOS V2R4以降	13	521-070
MF-AUDIT	AUDITPRT	拡張	10	RACF事象コードへの対応					zOS V2R4以降	14	521-071
	AUDITMON	拡張	11	RACF事象コードへの対応					zOS V2R4以降	15	521-072
	PNAVIADT	拡張	12	RACF事象コードへの対応					zOS V2R4以降	16	521-073
MF-DB2	CPEDB200	変更	13	EDMプール情報の変更		●			DB2 V12以降	17	521-074
支援ライブラリー	CPETS700	拡張	14	TS7700シリーズ VE R5.1~R5.3対応					TS7700 シリーズ VE R5.0~R5.3	18	521-075
	DSNCSV00	拡張	15	データセット暗号化情報の追加					z/OS V2R3以降	19	521-076
MF-eASSIST	PNAVICEC	拡張	16	CPCモデルの追加						20	521-077
		不具合	17	外部記憶使用状況で使用量がゼロの時の出力に誤り					V05L20R3以降	21	521-078
		不具合	18	外部記憶 SCMページ・データセット最大値が欠損値で出力される					V05L12R1以降	22	521-079
	PNAVIVSP	不具合	19	ストレージグループに属するボリューム名に誤り						23	521-080
	PNAVIDB2	変更	20	EDMプール情報の変更		●			DB2 V12以降	24	521-081
	PNAVTS70	拡張	21	TS7700シリーズ VE R5.1~R5.3対応					TS7700 シリーズ VE R5.0~R5.3	25	521-082
	PNAVIADT	拡張	22	RACF事象コードへの対応					zOS V2R4以降	26	521-083
	BOXWLC00	拡張	23	日時指定スイッチの追加				●		27	521-084

◇表項目の説明

- 非互換 :新旧バージョン間で、JCLやパラメータを変更しないとES/1が動作しない場合に●が付きます
- 数値変更 :本バージョンの適用により出力される値(数値/文字列)に変更がある場合に●が付きます
- 表示変更 :新規項目追加等により、レイアウトが変更した場合に●が付きます
- スイッチ追加 :新規スイッチが追加された場合に●が付きます
- 特記事項 :OSのバージョン、対象データなど環境が特定できる場合に明記します

新規プロセッサ

プロダクト	プログラム プロセッサ	分類	項番	項目	非互換	数値 変更	表示 変更	スイッチ 追加	特記事項	参照 ページ	記事 番号
MF-eASSIST	PNAVISRM	拡張	1	PNAVISRMプロセッサ					SMFタイプ99	3	521-060
支援ライブラリー	VOLCHK00	拡張	2	VOLCHK00プロセッサ						4	521-061

既存プロセッサ

プロダクト	プログラム プロセッサ	分類	項番	項目	非互換	数値 変更	表示 変更	スイッチ 追加	特記事項	参照 ページ	記事 番号
MF-ADVISOR	CMOSPRT0	拡張	1	zFSのサポート			●	●	zFS	6	521-063
		拡張	2	CPCモデルの追加			●			7	521-064
		拡張	3	イメージキャパシティ値の追加			●			8	521-065
	VOLLST00	拡張	4	「ストレージグループ情報レポート(SW07)」の追加				●		9	521-066
MF-SCOPE	AUDITPRT	拡張	5	RACF事象コードへの対応					zOS V2R4以降	11	521-068
	AUDITMON	拡張	6	RACF事象コードへの対応					zOS V2R4以降	12	521-069
	PNAVIADT	拡張	7	RACF事象コードへの対応					zOS V2R4以降	13	521-070
MF-AUDIT	AUDITPRT	拡張	8	RACF事象コードへの対応					zOS V2R4以降	14	521-071
	AUDITMON	拡張	9	RACF事象コードへの対応					zOS V2R4以降	15	521-072
	PNAVIADT	拡張	10	RACF事象コードへの対応					zOS V2R4以降	16	521-073
支援ライブラリー	CPETS700	拡張	11	TS7700シリーズ VE R5.1～R5.3対応					TS7700 シリーズ VE R5.0～R5.3	18	521-075
	DSNCSV00	拡張	12	データセット暗号化情報の追加					z/OS V2R3以降	19	521-076
MF-eASSIST	PNAVICEC	拡張	13	CPCモデルの追加						20	521-077
	PNAVTS70	拡張	14	TS7700シリーズ VE R5.1～R5.3対応					TS7700 シリーズ VE R5.0～R5.3	25	521-082
	PNAVIADT	拡張	15	RACF事象コードへの対応					zOS V2R4以降	26	521-083
	BOXWLC00	拡張	16	日時指定スイッチの追加				●		27	521-084

変更一覧

プロダクト	プログラム プロセッサ	分類	項番	項目	非互換	数値 変更	表示 変更	スイッチ 追加	特記事項	参照 ページ	記事 番号
MF-DB2	CPEDB200	変更	1	EDMプール情報の変更		●			DB2 V12以降	17	521-074
MF-eASSIST	PNAVIDB2	変更	2	EDMプール情報の変更		●			DB2 V12以降	24	521-081

不具合一覧

プロダクト	プログラム プロセッサ	分類	項番	項目	非互換	数値 変更	表示 変更	スイッチ 追加	特記事項	参照 ページ	記事 番号
MF-ADVISOR	CMOSPRT0	不具合	1	業務メモリー使用量に誤り		●				5	521-062
	VOLLST00	不具合	2	ボリューム情報がないデータでエラーする						10	521-067
MF-eASSIST	PNAVICEC	不具合	3	外部記憶使用状況で使用量がゼロの時の出力に誤り					V05L20R3以降	21	521-078
		不具合	4	外部記憶 SCMページ・データセット最大値が欠損値で出力される					V05L12R1以降	22	521-079
	PNAVIVSP	不具合	5	ストレージグループに属するボリューム名に誤り						23	521-080

◇表項目の説明

- 非互換 : 新旧バージョン間で、JCLやパラメータを変更しないとES/1が動作しない場合に●が付きます
- 数値変更 : 本バージョンの適用により出力される値(数値/文字列)に変更がある場合に●が付きます
- 表示変更 : 新規項目追加等により、レイアウトが変更した場合に●が付きます
- スイッチ追加 : 新規スイッチが追加された場合に●が付きます
- 特記事項 : OSのバージョン、対象データなど環境が特定できる場合に明記します

PNAVISRMプロセッサのご紹介

521-060. PNAVISRM プロセッサ

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	SMF タイプ 99

IBM システムの SMF タイプ 99 (SRM により収集されたりソースデータ) をフラットファイル形式で出力する PNAVISRM プロセッサを追加しました。実行用サンプル JCL はライブラリ CPE.PCGM に格納しています。

このプロセッサでは 2 種類のレコードを出力します。出力したフラットファイルは、Performance Navigator にインポートしてグラフ化することができます。

【使用レコード】

- ・ SMF タイプ 99 サブタイプ 2,8

【出力フラットファイル】

- ・ SRM サービス・クラス (レコード名 : SRM_SRVCLS)
- ・ SRM LPAR (レコード名 : SRM_LPAR)

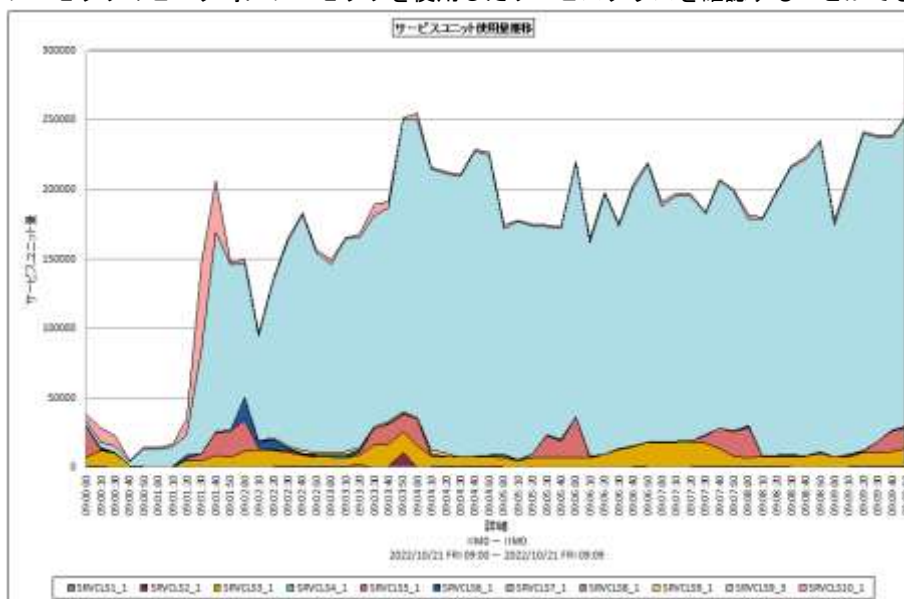
【グラフ化について】

フラットファイルを Performance Navigator にインポートし、標準グラフや Extension Graph 機能で任意のグラフを作成することが可能です。標準グラフの一覧はレター項番 521-092 でご紹介しています。

また、標準グラフの見方やチェックポイントについては、ES/1 NEO MF シリーズプロダクトマニュアル「Performance Navigator 出力結果解説書」をご参照ください。ここでは、代表的な標準グラフを 1 つご紹介します。

【SRM サービスユニット使用量推移 (サービスクラス内訳)】

このグラフは、10 秒間隔にプロセッサを使用したサービスユニット量の変動状況をサービスクラス単位に示します。プロセッサのピーク時にプロセッサを使用したサービスクラスを確認することができます。



VOLCHK00プロセッサのご紹介

521-061. VOLCHK00 プロセッサ

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	

IBM システム標準ユーティリティ IDCAMS の DCOLLECT 機能で収集したボリューム情報を入力とし、設定された検査値で検査を行う VOLCHK00 プロセッサを追加しました。実行用サンプル JCL はライブラリ CPE.SAMP に格納しています。

このプロセッサでは検査値より大きい、または小さいディスク・ボリュームやストレージグループを検出した場合に、システムログやコンソールにメッセージを出力します。メッセージは任意に設定できます。

【指定例】

対象ディスク・ボリュームの設定

IIM で始まるボリューム通番の使用率が 90% を越えた場合、メッセージセット 1 を出力します。

また、IIM で始まるボリューム通番の使用率が 70% を越えた場合、メッセージセット 2 を出力する。

```
* TARGET VOLUME SETTING (MUMXIMUM SETTING IS 65535)
*
VOLNAME(1) = 'IIM*'   TARGET VOLUME NAME
VCHKITEM(1) = 1      CHECK ITEM
*
*                   1:USE% HIGH LIMIT
*                   2:FREE% LOW LIMIT
*                   3:FREE CYL LOW LIMIT
*                   4:FREE TRK LOW LIMIT
*                   5:FREE KB LOW LIMIT
*
VCHKVALU(1) = 90     CHECK ITEM VALUE
VMSGSET(1) = 1       MESSAGE SET NUMBER
VMSGVLV(1) = 0       MESSAGE LEVEL
*
VMSGOUT(1) = 0       MESSAGE LOCATION
*                   0:NORMAL 1:ALART
*                   0:SYSLOG 1:SYSLOG & CON
*
VOLNAME(2) = 'IIM*'   TARGET VOLUME NAME
VCHKITEM(2) = 1      CHECK ITEM
*
*                   1:USE% HIGH LIMIT
*                   2:FREE% LOW LIMIT
*                   3:FREE CYL LOW LIMIT
*                   4:FREE TRK LOW LIMIT
*                   5:FREE KB LOW LIMIT
*
VCHKVALU(2) = 70     CHECK ITEM VALUE
VMSGSET(2) = 2       MESSAGE SET NUMBER
VMSGVLV(2) = 0       MESSAGE LEVEL
*
VMSGOUT(2) = 0       MESSAGE LOCATION
*                   0:SYSLOG 1:SYSLOG & CON
*
VOLNUM = 2           TARGET VOLUME NUMBER
```

```
* MESSAGE SETTING (MUMXIMUM SETTING IS 4)
*
MSG1(01) = 'ES1_VOLCHK00'
MSG1(02) = ':'
MSG1(03) = 'DANGER!'
MSG1(04) = '$SP'
MSG1(05) = '$VOLUME'
MSG1(06) = '$SP'
MSG1(07) = 'USE%'
MSG1(08) = '$SP'
MSG1(09) = '$USE%'
MSG1(10) = '$SP'
MSG1(11) = '%'
* *
MSG2(01) = 'ES1_VOLCHK00'
MSG2(02) = ':'
MSG2(03) = 'WARNING'
MSG2(04) = '$SP'
MSG2(05) = '$VOLUME'
MSG2(06) = '$SP'
MSG2(07) = 'USE%'
MSG2(08) = '$SP'
MSG2(09) = '$USE%'
MSG2(10) = '$SP'
MSG2(11) = '%'
*
```

【メッセージの出力例】

```
22335 15:41:52.05 JOB00290 00000290 +ES1_VOLCHK00:DANGER! IIMAU3 USE% 93 %
22335 15:41:52.06 JOB00290 00000290 +ES1_VOLCHK00:DANGER! IIMAU7 USE% 92 %
22335 15:41:52.08 JOB00290 00000290 +ES1_VOLCHK00:WARNING IIMAUT USE% 77 %
```

MF-ADVISOR

CMOSPRT0

521-062. 業務メモリー使用量に誤り

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	●	—	—	

【現象】

次の条件を満たす場合、業務のメモリー使用量の算出を誤っていました。

<対象レポート>

- ・ サービスクラス毎の主記憶使用量時系列レポート (SW12)
- ・ レポートクラス毎の主記憶使用量時系列レポート (SW12+SW12SEL)

<発生条件>

- ・ 共有ページ常駐時間がゼロより大きい場合

【原因】

プロセジャのロジックに不備があり、メモリー使用量を算出する際、共有ページ常駐時間を含めていませんでした。

【対処】

プロセジャを見直し、メモリー使用量算出の際、共有ページ常駐時間を含めて算出するようロジックを修正しました。

521-063. zFS のサポート

分類		数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項	
拡張	変更	不具合	—	●	●	zFS

zFS データに対応しました。

【対象データ】

- ・ SMF タイプ 92 サブタイプ 51, 52, 53

【追加スイッチ】

- ・ SW91ZFS

【zFS グローバル環境レポート (SW91ZFS)】

REQUEST		XCF		RESPONSE TIME		USER (173426)			CACHE		METADATA	
YY/MM/DD HHMM	LOCAL	REMOTE	LOCAL	REMOTE	LOCAL	REMOTE	CALL	HIT%	USE%	CALL	HIT%	
22/08/15 0900	55482	5637	0	0	5.560	2.731	572	100.00	35.61	2948	100.00	
22/08/15 0915	355660	2546	0	0	2.167	0.740	4596	100.00	35.61	3063	99.90	
22/08/15 0930	555578	87350	0	0	1.566	1.067	2550	100.00	35.61	3023	99.90	
22/08/15 0945	565191	360	0	0	4.561	4.638	6246	100.00	35.61	60	99.90	
22/08/15 1000	635482	3670	0	0	7.452	1.639	7372	100.00	35.61	2948	100.00	
22/08/15 1015	655661	35678	0	0	2.526	3.471	2456	100.00	35.61	3063	99.90	
22/08/15 1030	855089	73637	0	0	10.564	7.134	25560	100.00	35.61	13019	99.90	
22/08/15 1045	755643	267954	0	0	5.178	5.681	24596	100.00	35.61	43061	99.90	
22/08/15 1100	655482	36562	0	0	8.758	1.300	5672	100.00	35.61	2948	100.00	
22/08/15 1115	775661	356773	0	0	3.372	6.852	25296	100.00	35.61	33063	99.90	
22/08/15 1130	1055110	543566	0	0	5.743	5.450	24590	100.00	35.61	13020	99.90	
22/08/15 1145	555659	254668	0	0	8.368	8.201	24596	100.00	35.61	23063	99.90	

このZFSグローバル統計レポートの内容は次のようになっています。

REQUEST LOCAL	要求数 (FS 所有者が要求)
REQUEST REMOTE	要求数 (FS 非所有者が要求)
XCF LOCAL	別のシスプレックス・メンバーへの要求数 (FS 所有者が要求)
XCF REMOTE	別のシスプレックス・メンバーへの要求数 (FS 非所有者が要求)
RESPONSE TIME LOCAL	呼び出しあたりの平均応答時間 (マイクロ秒) (FS 所有者が要求)
RESPONSE TIME REMOTE	呼び出しあたりの平均応答時間 (マイクロ秒) (FS 非所有者が要求)
CACHE USER (xxxx)	ユーザー・ファイル・キャッシュサイズ (ページ数)
CACHE USER (xxxx) CALL	ユーザー・ファイル・キャッシュ読書要求数
CACHE USER (xxxx) HIT%	キャッシュヒットした読書要求 (%)
CACHE USER (xxxx) USE%	ユーザー・ファイル・キャッシュ使用率 (%)
CACHE METADATA CALL	メタデータキャッシュ検索要求数
CACHE METADATA HIT%	メタデータキャッシュヒットした検索要求 (%)

521-064. CPC モデルの追加

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	●	—	

プロセッサの CPC モデルに対応しました。従来まで表示していたプロセッサの「VR (バージョンコード)」の箇所を CPC モデルに置き換えて表示します。この対応に伴いレポートに出力する項目位置の調整を行いました。

【対象レポート】

- ・ 環境レポート (SSW02)

【追加項目】

- ・ CPC : CPC モデル

【環境レポート (SSW02)】

<V05L21R2>

```

(C) I I M CORP. 1987-2022      EXPERT SYSTEM / ONE      *** SYSPLEX CONFIGURATION REPORT ***      CMOSPRT0 5
PSW=SSW02                      --- ENVIRONMENT AND HARDWARE REPORT ---      VER=05 LVL=21

SYSPLEX = IIMPLX

----- PROCESSOR -----      STORAGE ----- -I/O SUBSYSTEM- ---DURATION---
SYSID  SYSNAME  RELEASE  MONITOR  TYPE  VR  CP  SERIAL  SU_SEC  VALUE  LPAR  CENTRAL  EXPANDED  MODE  #CHL  #LCU  #DASD  #INT  HH:MM:SS
SOW1  SOW1      ZV020400  RMF      796  1090  D3  3  021325  1167.12500  IBMSYS1  32.8 (GB)  0 (MB)  ESAME  2  . . . . . 355 88:44:59

- PR/SM CONFIGURATION -

----- LPAR GROUP -----
TYPE  VR  LPARNAME  MODE  WEIGHT  #CP  CAP  LIMIT1  LIMIT2  HCP  HCPLIM  MSU  CLUSTER  SYSNAME  NAME  HCP  HCPLIM  MSU  WLM  CS (MB)  SMT
1090  D3  IIMSYS1  NO     950    3  YES  100.00  100.00  NO   0.00  N/A  . . . . .  NO   0.00  N/A  . . . . .  0 ...
      PHYSICAL  NO     0     3  NO   0.00  0.00  NO   0.00  N/A  . . . . .  NO   0.00  N/A  . . . . .  0 ...

-----
TOTAL_          950    3   100.00  100.00          N/A          0
#PHYSICAL =    3 LOG/PHY RATIO = 1.0

```

<V05L21R3>

```

(C) I I M CORP. 1987-2023      EXPERT SYSTEM / ONE      *** SYSPLEX CONFIGURATION REPORT ***      CMOSPRT0 5
PSW=SSW02                      --- ENVIRONMENT AND HARDWARE REPORT ---      VER=05 LVL=21

SYSPLEX = IIMPLX

----- PROCESSOR -----      STORAGE ----- -I/O SUBSYSTEM- ---DURATION---
SYSID  SYSNAME  RELEASE  MONITOR  TYPE  CPC  CP  SERIAL  SU_SEC  VALUE  LPAR  CENTRAL  EXPANDED  MODE  #CHL  #LCU  #DASD  #INT  HH:MM:SS
SOW1  SOW1      ZV020400  RMF      796  1090  306  3  021325  1167.12500  IBMSYS1  32.8 (GB)  0 (MB)  ESAME  2  . . . . . 355 88:44:59

- PR/SM CONFIGURATION -

TYPE  CPC
1090  306

----- LPAR GROUP -----
LPARNAME  MODE  WEIGHT  #CP  CAP  LIMIT1  LIMIT2  HCP  HCPLIM  MSU  CLUSTER  SYSNAME  NAME  HCP  HCPLIM  MSU  WLM  CS (MB)  SMT  IMAGE
IIMSYS1  NO     950    3  YES  100.00  100.00  NO   0.00  N/A  . . . . .  NO   0.00  N/A  . . . . .  0 ...  9
PHYSICAL  NO     0     3  NO   0.00  0.00  NO   0.00  N/A  . . . . .  NO   0.00  N/A  . . . . .  0 ...  9

-----
TOTAL_          950    3   100.00  100.00          N/A          0
#PHYSICAL =    3 LOG/PHY RATIO = 1.0

```

521-065. イメージキャパシティ値の追加

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	●	—	

イメージキャパシティ値を追加しました。

このイメージキャパシティ値は、通常の論理プロセッサ区画の場合に出力されます。

【対象レポート】

- 環境レポート(SSW02) PR/SM 構成

【追加項目】

- IMAGE : イメージキャパシティ値
この区画で使用できる CPU 容量 (1 時間当たりの MSU) (100 万サービス単位) であり、以下の各値のうち最小の値が出力される。
 - 区画の論理 CP 数 (オフライン含む) から求めた容量
 - ソフトウェアキャッピング制限値
 - グループでのソフトウェアキャッピング制限値
 - CP コア数の絶対制限値
 - グループでの CP コア数の絶対制限値 CPC モデル

【環境レポート (SSW02)】

<V05L21R2>

```

- PR/SM CONFIGURATION -
                                     ----- LPAR GROUP -----
TYPE VR LPARNAME MODE WEIGHT #CP  CAP LIMIT1 LIMIT2 HCP HCPLIM MSU  CLUSTER  SYSNAME  NAME  HCP HCPLIM MSU  WLM CS(MB) SMT
2827 00 IIM1      NO    100   4 NO  45.45 45.45 NO    0.00 N/A PLEX1   IIM1  LGRP1  NO  0.00 120  12800 ...
      IIM2      NO    100   4 NO  45.45 45.45 NO    0.00 N/A PLEX2   IIM2  LGRP1  NO  0.00 120  12800 ...
      IIM3      NO    10    4 NO  4.54  4.54 NO    0.00 10  ..... NO  0.00 N/A  12800 ...
      IIM4      NO    10    4 NO  4.54  4.54 NO    0.00 10  ..... NO  0.00 N/A  12800 ...
      PHYSICAL NO    0    4 NO  0.00  0.00 NO    0.00 N/A  ..... NO  0.00 N/A    0 ...
-----
_TOTAL_          220  16   100.00 100.00          20
#PHYSICAL =     4 LOG/PHY RATIO = 2.0      MAX_MSU =   230 WHITE SPACE = 210
    
```

<V05L21R3>

```

- PR/SM CONFIGURATION -

TYPE CPC
2827 505
                                     ----- LPAR GROUP -----
LPARNAME MODE WEIGHT #CP  CAP LIMIT1 LIMIT2 HCP HCPLIM MSU  CLUSTER  SYSNAME  NAME  HCP HCPLIM MSU  WLM CS(MB) SMT IMAGE
IIM1      NO    100   4 NO  45.45 45.45 NO    0.00 N/A PLEX1   IIM1  LGRP1  NO  0.00 120  12800 ... 120
IIM2      NO    100   4 NO  45.45 45.45 NO    0.00 N/A PLEX2   IIM2  LGRP1  NO  0.00 120  12800 ... 120
IIM3      NO    10    4 NO  4.54  4.54 NO    0.00 10  ..... NO  0.00 N/A  12800 ... 10
IIM4      NO    10    4 NO  4.54  4.54 NO    0.00 10  ..... NO  0.00 N/A  12800 ... 10
PHYSICAL NO    0    4 NO  0.00  0.00 NO    0.00 N/A  ..... NO  0.00 N/A    0 ... 230
-----
_TOTAL_          220  16   100.00 100.00          20
#PHYSICAL =     4 LOG/PHY RATIO = 2.0      MAX_MSU =   230 WHITE SPACE = 210
    
```

VOLLST00

521-066. 「ストレージグループ情報レポート(SW07)」の追加

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	●	

「ストレージグループ情報レポート (SW07)」を新たに追加しました。IDCAMS の DCOLLECT 機能で取得したボリューム情報からストレージグループのボリューム総容量、使用量、空き容量などを確認することが可能になります。このレポートは従来からあるボリューム選択スイッチ (SVOL/EVOL)、容量単位制御スイッチ (UNITSW、TRKCAP、TRKNUM) を併用して使用することが可能です。

<対象レポート>

- ・ ストレージグループ情報レポート (SW07)

【追加スイッチ】

SW07

SW07 = 0 : 「ストレージグループ情報レポート (SW07)」を出力しない (省略値)
= 1 : 「ストレージグループ情報レポート (SW07)」を出力する

【指定例】

「ストレージグループ情報レポート (SW07)」を出力する。

SW07 = 1

【ストレージグループ情報レポート (SW07)】

<V05L21R3>

YY/MM/DD HH:MM:SS	NAME	VOLSER	TOTAL (KB)	ALLOC (KB)	FREE (KB)	USAGE (%)	LARGEST EXTENT	FREE EXTENT
22/11/10 09:12:14	STG001	IIM001	14940703	3376	14937327	0.02	14937328	1
		*****	14940703	3376	14937327	0.02	14937328	1
	STG002	IIM002	8314501	7559443	755058	90.92	249842	72
		*****	8314501	7559443	755058	90.92	249842	72
	STG003	IIM003	8314501	2775153	5539348	33.38	5534700	35
		IIM004	8314501	1773185	6541316	21.33	6537387	37
		*****	16629002	4548338	12080664	27.35	12072087	72
	TOTAL	*****	39884206	12111157	27773049	30.37	27259257	145

SYSTEM=VTOC, START=22/11/10 (THU) -0912, END=22/11/10 (THU) -0912, REPORTING=22/12/21 (WED) -1334

521-067. **ボリューム情報がないデータでエラーする**

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	

【現象】

次の条件を満たす場合、次のエラーメッセージを出力して終了コード 10 でエラーしていました。

<発生条件>

- ・ 入力データにボリューム情報が含まれていない

<メッセージ>

```
0900 ----- INDEXED SYMBOL HAS ZERO INDEX VALUE
          COMPUTE STORGASP (INTPOS)=STORGASP (INTPOS)+DCDALLSP
```

【原因】

以下のレポートを作成する場合にボリューム情報を使用していますが、ボリューム情報の有無をチェックしていませんでした。

- ・ ストレージグループ使用率レポート (SW05, SW051)
- ・ データセットグループ使用状況レポート (SW06)
- ・ データセットグループ使用率例外レポート (HINTSW, GRPUSEHI)
- ・ データセットグループ割当量例外レポート (HINTSW, GRPALCHI)

【対処】

ボリューム情報の有無をチェックするようプロセッサを修正しました。

入力データにボリューム情報が含まれない場合、上記のレポートは作成されません。

MF-SCOPE

AUDITPRT

521-068. RACF 事象コードへの対応

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	zOS V2R4 以降

zOS V2R4 で追加された RACF の事象コードに対応しました。

事象コード	事象コード修飾子	理由
1	44	識別トークン検証エラー
1	45	識別トークン・ビルド・エラー
1	46	識別トークン認証失敗

AUDITMON

521-069. RACF 事象コードへの対応

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	zOS V2R4 以降

zOS V2R4 で追加された RACF の事象コードに対応しました。

事象コード	事象コード修飾子	理由
1	44	識別トークン検証エラー
1	45	識別トークン・ビルド・エラー
1	46	識別トークン認証失敗

PNAVIADT

521-070. RACF 事象コードへの対応

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	zOS V2R4 以降

zOS V2R4 で追加された RACF の事象コードに対応しました。

事象コード	事象コード修飾子	理由
1	44	識別トークン検証エラー
1	45	識別トークン・ビルド・エラー
1	46	識別トークン認証失敗

MF-AUDIT

AUDITPRT

521-071. RACF 事象コードへの対応

分類		数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—
					zOS V2R4 以降

zOS V2R4 で追加された RACF の事象コードに対応しました。

事象コード	事象コード修飾子	理由
1	44	識別トークン検証エラー
1	45	識別トークン・ビルド・エラー
1	46	識別トークン認証失敗

AUDITMON

521-072. RACF 事象コードへの対応

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	zOS V2R4 以降

zOS V2R4 で追加された RACF の事象コードに対応しました。

事象コード	事象コード修飾子	理由
1	44	識別トークン検証エラー
1	45	識別トークン・ビルド・エラー
1	46	識別トークン認証失敗

PNAVIADT

521-073. RACF 事象コードへの対応

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	zOS V2R4 以降

zOS V2R4 で追加された RACF の事象コードに対応しました。

事象コード	事象コード修飾子	理由
1	44	識別トークン検証エラー
1	45	識別トークン・ビルド・エラー
1	46	識別トークン認証失敗

MF-DB2

CPEDB200

521-074. EDM プール情報の変更

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	●	—	—	DB2 V12 以降

DB2 V12 より、EDM プールの各プールは起動時に割り当てられず、必要に応じてページが確保されるようになりました。そのため、未使用ページにあたる次の項目が無効となりました。

DBD フリーページ数

SMTM フリーページ数

SKEL フリーページ数

上記のフリーページを用いて算出している各使用率が正しくない値となるため、V12 以降の場合、使用率の算出方法を変更します。これにより、V12 以降でも使用率が確認できます。

- ・ V11 まで : DBD, SMTM, SKEL 使用率 (%) = 100 - 未使用ページの割合
- ・ V12 以降 : DBD, SMTM, SKEL 使用率 (%) = 使用ページ数/ページ総数*100

<対象レポート>

- ・ インターバル・サマリー・レポート (SW010)
- ・ EDM プール利用状況レポート (SW030) (DB2 V10.1 以降用)

<発生条件>

- ・ DB2 V12 以降

MF-支援ライブラリー

CPETS700

521-075. TS7700 シリーズ VE R5.1～R5.3 対応

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	TS7700 シリーズ VE R5.0～R5.3

TS7700 R5.0～R5.3 のデータに対応しました。

DSNCSV00

521-076. データセット暗号化情報の追加

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	z/OS V2R3 以降

z/OS V2R3 で追加されたデータセット暗号化機能に対応しました。
次のレコードでデータセット暗号化を示す項目を追加します。

<対象レコード>

- ・ タイプ 14 : INPUT, RDBACK データセット活動
- ・ タイプ 15 : OUTPUT, UPDAT, INOUT, OUTIN データセット活動

【追加項目】

- ・ 暗号化タイプ 1 (暗号化方式)
- ・ 暗号化タイプ 2 (暗号鍵の種類)

MF-eASSIST

PNAVICEC

521-077. CPC モデルの追加

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	

プロセッサの CPC モデルを追加しました。この拡張によるパラメータの追加はありません。

【対象レコード】

【構成情報】レコード名：CONFIG

フィールド名	説明
CPC	CPC モデル

521-078. 外部記憶使用状況で用量がゼロの時の出力に誤り

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	V05L20R3 以降

【現象】

用量がゼロの外部記憶ページ・データセットにおいて、ゼロを出力すべきフィールドに欠損値を出力していました。また、値を出力すべきフィールドにゼロを出力していました。該当フィールドを使用してグラフを作成している場合は、グラフに系列値が表示されません。

<発生条件>

- ・ V05L20R3 以降
- ・ 外部ページ・データセットの用量がゼロ

<対象レコード>

【外部記憶使用状況】レコード名：AUX_STR

フィールド名	説明	用量がゼロの場合
*_DS_AVG	平均 ページ・データセット使用率 (%)	欠損値
*_DS_MAX	最大 ページ・データセット使用率 (%)	欠損値

*：ページ・データセット種別 (PLPA, コモン, ローカル, スワップ, SCM)

【外部記憶使用状況 (詳細)】レコード名：AUX_STR_DETAIL

フィールド名	説明	用量がゼロの場合
DURATM_MAX	最大使用率時のインターバル時間 (秒)	ゼロ
IOCOUNT_MAX	最大使用率時の I/O 回数	欠損値
SRVTM_MAX	最大使用率時のページ転送時間 (ミリ秒)	欠損値
SLOT_USE_MAX	最大使用率時のデータセット使用量 (スロット)	欠損値
SLOT_SIZE_MAX	最大使用率時のデータセット容量 (スロット)	ゼロ

【原因】

用量がゼロの場合、使用率の計算を行わず初期値を出力していました。V05L20R3 以前の初期値はゼロでしたが、V05L20R3 から初期値を欠損値に変更したため、用量がゼロの場合に欠損値を出力していました。また最大使用時の検出においても変数の初期値が欠損値となり、該当フィールドに欠損値を出力していました。

【対処】

用量がゼロの場合において、使用率を正しく計算するように修正しました。また最大使用時検出を正しく行うように修正しました。

521-079. 外部記憶 SCM ページ・データセット最大値が欠損値で出力される

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	V05L12R1 以降

【現象】

外部記憶 SCM ページ・データセットにおいて、常に欠損値が出力されていました。

<発生条件>

- ・ V05L12R1 以降
- ・ SCM ページ・データセットが定義されている

<対象レコード>

【外部記憶使用状況（詳細）】レコード名：AUX_STR_DETAIL

フィールド名	説明
DURATM_MAX	最大使用率時のインターバル時間（秒）
IOCOUNT_MAX	最大使用率時の I/O 回数
SRVTM_MAX	最大使用率時のページ転送時間（ミリ秒）
SLOT_USE_MAX	最大使用率時のデータセット使用量（スロット）
SLOT_SIZE_MAX	最大使用率時のデータセット容量（スロット）

【原因】

SCM ページ・データセットにおいて、データ格納時とデータ出力時に使用する配列位置が一致しておらず、常に欠損値を出力していました。

【対処】

データ格納時とデータ出力時に使用する配列位置を一致させ、正しい値を出力するよう修正しました。

PNAVIVSP

521-080. ストレージグループに属するボリューム名に誤り

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	

【現象】

次の条件を満たす場合、ストレージグループに属するボリューム名が正しく出力されませんでした。

<発生条件>

- ・ ストレージグループに属していないボリュームのデータを入力とした場合

【当該項目】

【ストレージグループ情報-NODATAINFO】レコード名：IBMSTG

フィールド名	説明
VOLSER	ボリューム通番

【原因】

ボリューム名を出力する際の配列変数に誤りがあり、ストレージグループに属していないボリューム名を出力していました。

【対処】

正しい配列変数を使用するようにしました。

PNAVIDB2

521-081. EDM プール情報の変更

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	●	—	—	DB2 V12 以降

DB2 V12 より、EDM プールの各プールは起動時に割り当てられず、必要に応じてページが確保されるようになりました。そのため、未使用ページにあたる次の項目が無効となりました。

DBD フリーページ数

SMTM フリーページ数

SKEL フリーページ数

上記のフリーページを用いて算出している各使用率が正しくない値となるため、V12 以降の場合、使用率の算出方法を変更します。これにより、V12 以降でも使用率が確認できます。

- ・ V11 まで : DBD, SMTM, SKEL 使用率 (%) = 100 - 未使用ページの割合
- ・ V12 以降 : DBD, SMTM, SKEL 使用率 (%) = 使用ページ数 / ページ総数 * 100

【該当項目】

【DB2 EDM プール】レコード名 : DB2_EDM

フィールド名	説明
DBDUSEPCT	DBD プール使用率 (%)
STMTUSEPCT	STMT プール使用率 (%)
SKEL_USEP_ABOVE	SKEL プール使用率 (%)

<発生条件>

- ・ DB2 V12 以降

PNAVTS70

521-082. TS7700 シリーズ VE R5.1～R5.3 対応

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	TS7700 シリーズ VE R5.0～R5.3

TS7700 R5.0～R5.3 のデータに対応しました。

PNAVIADT

521-083. RACF 事象コードへの対応

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	zOS V2R4 以降

zOS V2R4 で追加された RACF の事象コードに対応しました。

事象コード	事象コード修飾子	理由
1	44	識別トークン検証エラー
1	45	識別トークン・ビルド・エラー
1	46	識別トークン認証失敗

BOXWLC00

521-084. 日時指定スイッチの追加

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	●	

対象日時を選択する日時指定スイッチを追加しました。BOXWLC00 プロセッサは月次の運用を想定していましたが、今回のスイッチ追加により、特定日時のパフォーマンスデータを対象とすることが可能になります。

【追加スイッチ】

```
DATESW = 0
SEL1   = 00000
SEL2   = 0000
SEL3   = 99999
SEL4   = 2400
```

DATESW : SEL1, SEL3 の解析対象日の日付形式を指定します。

0 : ジュリアン形式、1:グレゴリアン形式

SEL1 : 開始日 (形式は YYDDD または YYMMDD)

SEL2 : 開始時刻 (形式は HHMM)

SEL3 : 終了日 (形式は YYDDD または YYMMDD)

SEL4 : 終了時刻 (形式は HHMM)

【指定例】

2022年7月15日9:00から翌日9:00を対象とする(グレゴリアン形式)

```
DATESW = 1
SEL1   = 220715
SEL2   = 0900
SEL3   = 220716
SEL4   = 0900
```

【注意/制限事項】

- ・ 「R_PERIOD=LAST_MON」、「R_PERIOD=YYYYMM」の指定と日時指定スイッチを同時におこなった場合は、日時指定スイッチの指定が有効となります。

ES/1 NEO MFシリーズ【PC】リリースニュースレター機能一覧 プログラム別

プログラム	分類	項番	項目	参照ページ	記事番号
Performance Navigator	拡張	1	Microsoft®365Apps環境への対応	30	521-090
	拡張	2	Microsoft®Windows®11への対応	30	521-091
	拡張	3	システム・リソース・マネージャー(SRM)関連のグラフ追加	31	521-092
	不具合	4	PerformanceWebServiceにグラフがアップロードされない	33	521-093
	不具合	5	集合縦棒グラフが正常に作成されない	34	521-094
	不具合	6	エクスポート後のCSVファイルがGUIから開けない	35	521-095
	不具合	7	MicrosoftOfficeエンジンの使用を最小限にした場合にグラフ作成不具合	36	521-096
Web	拡張	8	ホストプロセッサ追加・変更に伴うWebの変換定義ファイル対応	37	521-097

ES/1 NEO MFシリーズ【PC】リリースニュースレター機能一覧 カテゴリ分類別

拡張一覧

プログラム	分類	項番	項目	参照ページ	記事番号
Performance Navigator	拡張	1	Microsoft®365Apps環境への対応	30	521-090
	拡張	2	Microsoft®Windows®11への対応	30	521-091
	拡張	3	システム・リソース・マネージャー(SRM)関連のグラフ追加	31	521-092
Web	拡張	4	ホストプロセッサ追加・変更に伴うWebの変換定義ファイル対応	37	521-097

不具合一覧

プログラム	分類	項番	項目	参照ページ	記事番号
Performance Navigator	不具合	1	PerformanceWebServiceにグラフがアップロードされない	33	521-093
	不具合	2	集合縦棒グラフが正常に作成されない	34	521-094
	不具合	3	エクスポート後のCSVファイルがGUIから開けない	35	521-095
	不具合	4	MicrosoftOfficeエンジンの使用を最小限にした場合にグラフ作成不具合	36	521-096

Performance Navigator(拡張)

521-090. Microsoft®365 Apps 環境への対応

Microsoft®365 Apps に対応しました。対象となる更新チャンネルは次の通りです。

<更新チャンネル>

チャンネル	バージョン	ビルド	サービス開始日
半期エンタープライズチャンネル	2208	15601.20456	2023/1/10
	2302	16130.20694	2023/7/11

521-091. Microsoft® Windows® 11 への対応

Microsoft® Windows® 11 に対応しました。

521-092. システム・リソース・マネージャー(SRM)関連のグラフ追加

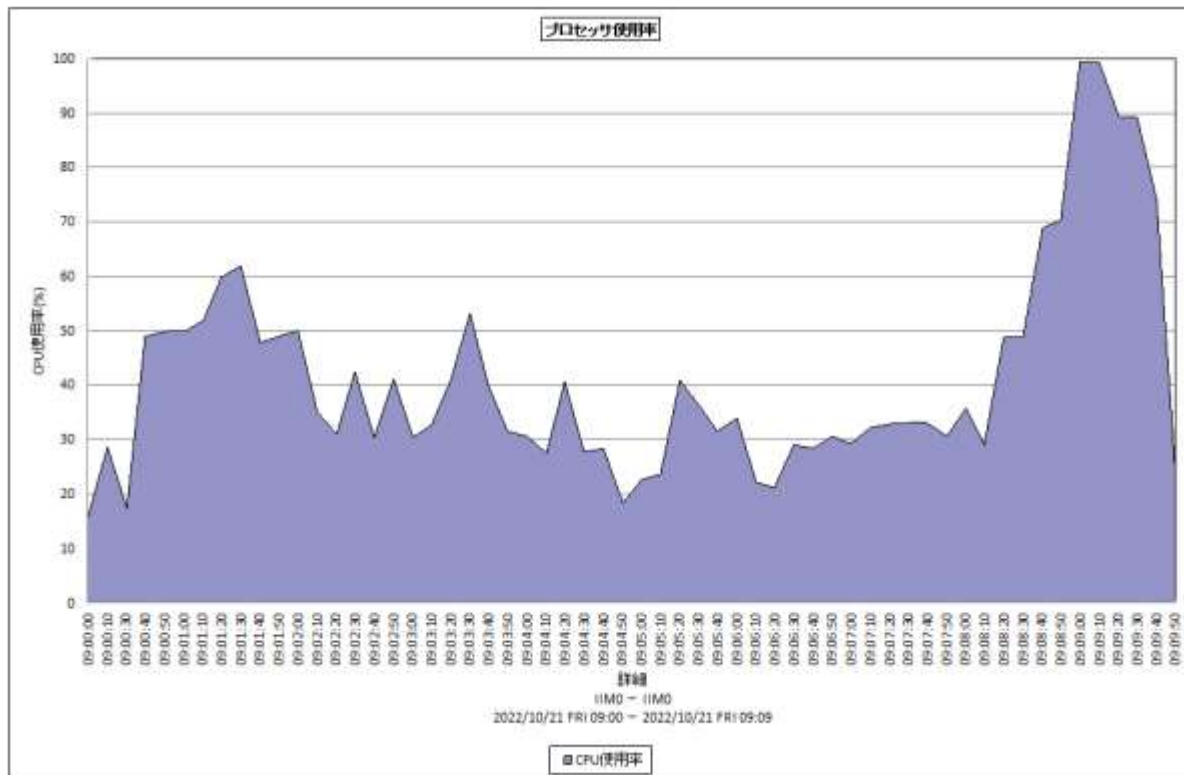
標準グラフにシステム・リソース・マネージャー (SRM) 関連のグラフを追加しました。このグラフは新規プロセッサ PNAVISRM のフラットファイルで作成できます。

【追加グラフ】

リソース	グラフタイトル
プロセッサ	SRM プロセッサ使用率グラフ
業務	SRM サービスユニット使用量推移 (サービスクラス内訳)
	SRM サービスユニット使用量推移 (サービスクラス毎)
	SRM CPU 遅延サンプル数推移 (サービスクラス内訳)
	SRM CPU 遅延サンプル数推移 (サービスクラス毎)
	SRM CPU DispatchingPriority (サービスクラス毎)
	SRM パフォーマンスインデックス推移 (サービスクラス内訳)
	SRM サービスユニット使用量推移 (特定サービスクラス)
	SRM CPU サンプル推移 (特定サービスクラス)

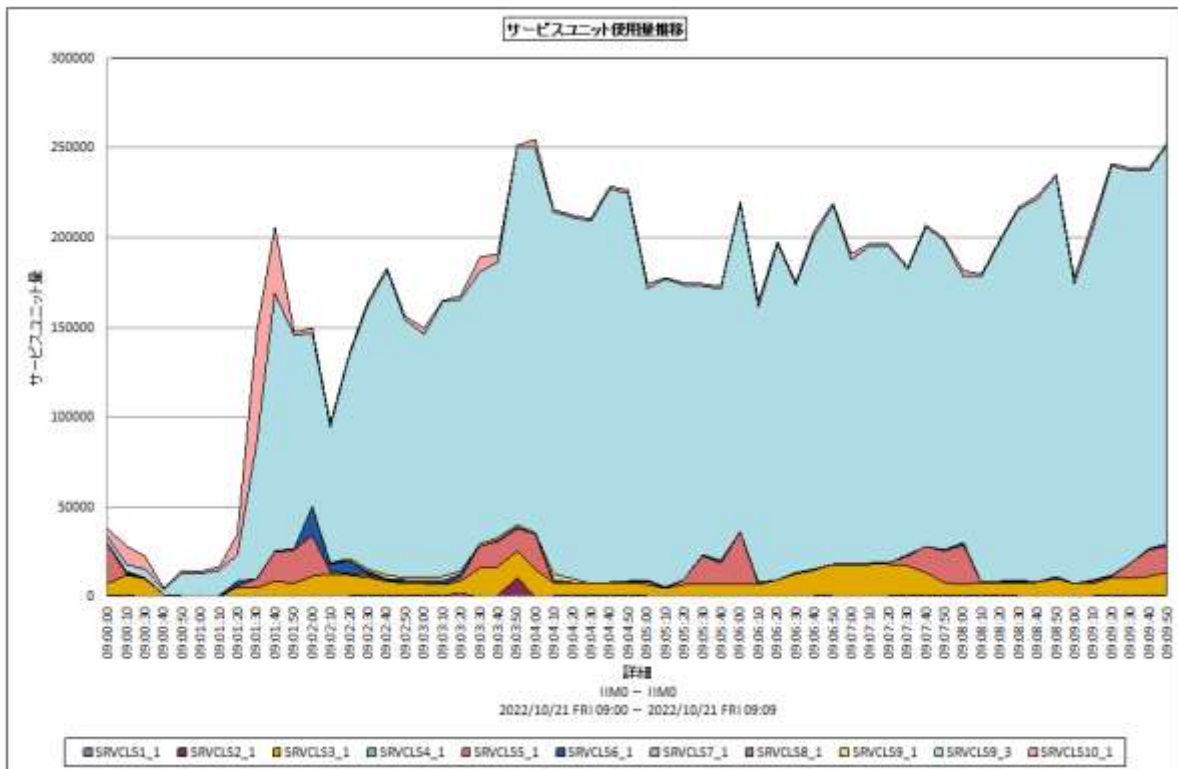
【SRM プロセッサ使用率グラフ】

このグラフは、区画に割り当てられた CPU 能力を 100% として、10 秒間隔の区画のプロセッサ使用率の変動状況を示します。短時間のプロセッサ使用率のピークを確認することができます。



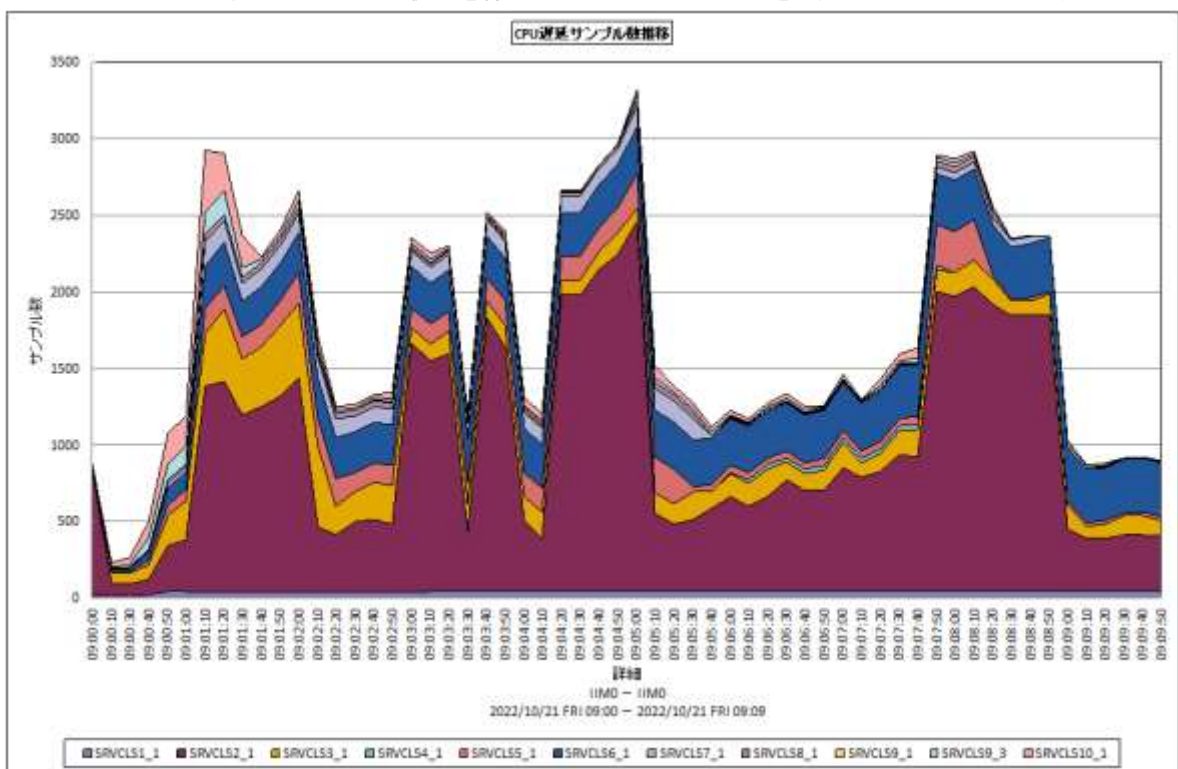
【SRM サービスユニット使用量推移 (サービスクラス内訳)】

このグラフは、10秒間隔にプロセッサを使用したサービスユニット量の変動状況をサービスクラス単位に示します。プロセッサのピーク時にプロセッサを使用したサービスクラスを確認することができます。



【SRM CPU 遅延サンプル数推移 (サービスクラス毎)】

このグラフは、10秒間隔のプロセッサ遅延サンプル数の変動状況をサービスクラス単位に示します。プロセッサのピーク時にプロセッサの使用を待たされたサービスクラスを確認することができます。



Performance Navigator(不具合)

521-093. Performance Web Service にグラフがアップロードされない

【現象】

次の条件を満たす場合、Performance Web Service 用のインデックスファイルが作成されず、Performance Web Service にグラフをアップロードすることができませんでした。

<条件>

- ・ 報告書テンプレートの数 が 257 以上登録されている

【原因】

Performance Web Service 用のインデックスファイル作成処理において、報告書テンプレートの内容を検索する上限を 256 個としていたためでした。

【対処】

報告書テンプレートの内容を検索する上限を 999 個に修正しました。

521-094. 集合縦棒グラフが正常に作成されない

【現象】

次の条件を満たす場合、集合縦棒グラフの縦棒が積みあがって表示され、意図したグラフが作成されませんでした。

<条件>

- ・ Performance Navigator の「環境」 - 「Microsoft Office の設定」で「Microsoft Office エンジンの使用を最小限にする」を選択している
- ・ Extension Graph 機能で、下記の設定を指定している
 - ・ 「グラフ作成オプション」 - 「縦棒グラフの場合、棒を重ねる」を選択
 - ・ 「グラフの種類」 - 「縦棒グラフ」の「集合縦棒グラフ」を選択

【原因】

グラフ作成ロジックに誤りがあったためでした。

【対処】

グラフ作成ロジックを修正し集合縦棒グラフの場合でも、正しくグラフ出力できるようにしました。

521-095. エクスポート後の CSV ファイルが GUI から開けない

【現象】

Performance Navigator エクスポート機能で作成した CSV ファイルを開こうとするとアプリケーションが正しく動作せず、GUI からファイルが開けないことがありました。

【原因】

Performance Navigator は拡張子「.csv」に関連付けされているアプリケーションをレジストリから取得していますが、環境によって正常にレジストリ情報を読み取ることが出来ないためでした。

【対処】

正常にパス情報を取得できるよう対応しました。

521-096. Microsoft Office エンジンの使用を最小限にした場合にグラフ作成不具合

【現象】

Microsoft Office エンジンの使用を最小限にした場合、次のグラフが正常に作成できませんでした。また、HTML 形式で報告書を作成した際に生成する.gif ファイルも正常に作成できませんでした。

<対象グラフ>

- ・ ジョブ スケジュールマップ [詳細]
- ・ ジョブグループ スケジュールマップ [詳細]
- ・ ジョブスケジュールマップ(処理時間内訳) [詳細]
- ・ ジョブ イニシエータ待ち時間マップ [詳細]
- ・ 特定ジョブスケジュールマップ(ステップ内訳) [詳細]

【原因】

上記対象グラフは Microsoft Office エンジンの使用を最小限にしているにもかかわらず内部的に Excel マクロを使用しますが、正常に動作していませんでした。

【対処】

Microsoft Office エンジンの使用を最小限にした場合において、グラフ及び、.gif ファイルが正常に作成できるよう修正しました。

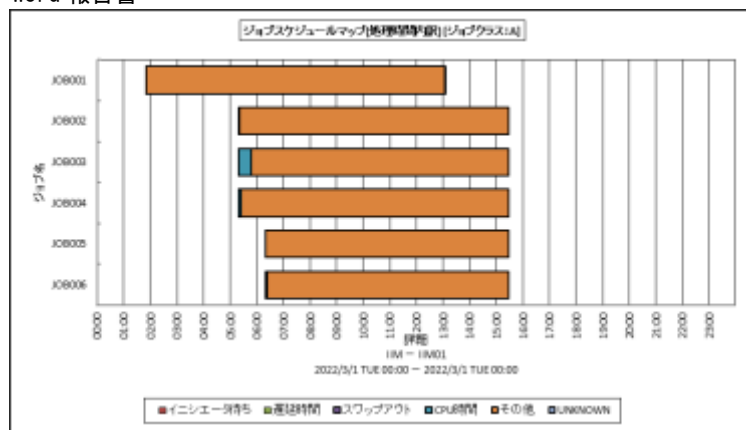
【注意/制限事項】

- ・ 上記グラフを Excel グラフと Word の報告書に張り付けたグラフの配色は異なります。

Excel グラフ



Word 報告書



Web(拡張)

521-097. ホストプロセッサ追加・変更に伴う Web の変換定義ファイル対応

ホストプロセッサの追加・変更に伴い、Web の変換定義ファイル (xxxxxxx.dat) を対応しました。対応したプロセッサは次の通りです。

- ・ CMOSPRTO
- ・ VOLLST00